

「クリエイターの話 ～ 私のイメージの源泉」

スペースデザイン部会員 岡本 泰子

『自然から学ぶ ～ 普遍的な世界』

私は京都精華短期大学に入学して染色に出会ってから、学生時代とアシスタントの6年間、学校の作業室を使って制作をし「命を内包する形」をテーマに、繊維素材を使ったオリジナル技法の立体作品を制作しています。同時に古生物に命を吹き込む復元画「サイエンティフィックイラストレーション」も手がけており、かたちや構造の美しさに気づかされる貴重な場となっています。自然科学の仕事と関わることは自身の創作活動にとって不可欠で「自然形態への興味→作品へと昇華」という関係を続けて展開の可能性を探っています。

<私の源泉>



「月刊アニマ」

子供の頃は、近所の雑木林や小川で身近な生物を捕まえていました。その流れで図鑑や動物関連の本ばかり眺めていましたが、特に影響を受けたのが「月刊アニマ」という雑誌です。(平凡社、1973 創刊、1995～休刊) 当時から興味を持っていた恐竜の最新情報や、生物による建築(巣)、辺境の地に暮らす民族の住生活など、創作活動に通じる興味の源はこの雑誌に集約されるかも知れません。今あらためて読み返すと、後年影響を受けた諸先輩が執筆された記事も多く、本当に不思議なつながりを感じます。

<「見立て」と「らしさ」>



「Spine 2022-1」

折り紙も創作における源泉のひとつです。日本発祥の創作遊びであり、最近は宇宙工学の重要な研究対象にもなっている最先端の分野です。たった1枚の正方形の紙から様々な形が生まれる世界に無限の可能性を感じます。中でも伝承折り紙「鶴」はリアルではないのに「らしさ」を感じさせる、代表的な「見立て作品」だと思います。自身の創作においてもテーマに対するリアルさではなく「らしさ」での表現を目指しています。

<条件があることの面白さ>

先に触れた折り紙にも共通しますが、染織工芸は技術的な条件の多い分野です。その不自由さから各技法の特徴も生まれてくるのだと思います。

私の創作は立体が中心ですが、自身で課している条件は「素材の特徴を活かし、作品の構造とリンクしない支持体は用いない」ことです。そのため作品サイズや素材によって表現方法が異なります。

大きな作品：「張力・重力」によって生まれる形。ある程度の完成形を想定し、パーツを現場で吊りながら組み立てることもあります。<Membrane-2003> はイメージが固まらないままパーツを編んでいる際に、偶然ラジオから流れていた宇宙の成り立ちについての新説「M（膜）理論」から発想を得た作品です。



「Membrane-2003」
インスタレーション
(ギャラリー・イン・ザ・ブルー 宇都宮)
素材：サイザル麻(片撚り)
技法：フリーテクニック(針で編む)
構造：stepped linking

<ミニアチュール>

素材の性質を生かし自立するかたちを意識しています。最近のミシン刺繍作品では極厚手のウール地を使い、最小限の平面パーツの組み合わせで有機的な立体とする事にこだわっています。紙の上でのアイデアスケッチはせず、展開した際に平面となるよう意識しつつ工業用クレイで立体的なマケットを作ります。感覚的なプロセスでも案外平らになるのは折り紙経験によるかも知れません。



工業用クレイによるマケット



「Spine 2019-1」

- ・素材 - ウール、ポリエステル糸
- ・技法 - PC 刺繍ミシンによるオリジナル技法

<道具について思うこと>

どの作品にも「縫い針」が不可欠ですが、仕事で関わったラスコー展（国立科学博物館、2017）の展示物「骨製の縫い針」には感銘を受けました。2万年前、クロマニヨンの人々が現在と変わらぬ形の道具を手にし、衣服を纏って氷河期を生き延びた結果、人類繁栄のきっかけに繋がったのだそうです。最近はそのような壮大な時間にも思いを馳せつつ作品に取り組んでいます。

岡本泰子 プロフィール



1990 東京藝術大学美術学部工芸科卒業
1992 同大学院美術専攻科工芸専攻修了
1990~92 国立科学博物館古生物第3研究室技術補佐員
1993~95 東京藝術大学非常勤講師
2000~13 文星芸術大学
2014~ 現在 文化学園大学 教授

【展覧会】

1995~新制作展（1997, 2001 新作家賞受賞）
2002~03 こころのパンプロジェクト展（トルコ）
2005 新制作協会 会員推挙
2007 シルクロードプロジェクト展（ローマほか）
2010.11.13.15.17.19.21 テキスタイルアート・ミニアチュール展 1~7（東京・大阪・金沢・福岡）／ほか
2011 The Nature Spirit 展（スペイン）
2013-2014 スロバキア 日本交流ミニアチュール展 - 外交樹立 20 周年記念 -（スロバキア）
2016 第3回日本トルコ友好作品展（東京・ギャラリーマルヒ）
2017 縫 - 染織開設 50 周年記念展（東京藝術大学 陳列館）
その他、グループ展、個展など

【著書・掲載書籍】

新版 絶滅哺乳類図鑑（丸善）、動物デッサンテクニック（誠文堂新光社）、動物がすき！（福音館書店）、小学館の図鑑 NEO シリーズや国立科学博物館での展示解説イラスト（常設展示、大恐竜展、生命大躍進、ラスコー展、化石ハンター展ほか）など

新制作協会会員
JTC 日本テキスタイルカウンシル理事
文化学園大学 教授